

教科書について

「楽しく学べて、コミュニケーション力が付く教科書」を求めて

考えてみませんか？

皆さんはこれまで、どんな教科書に出会い、
どんな「付き合い方」をしましたか。

長年、既存の教科書について疑問を持ちながら考え、
試行錯誤を重ねた現場の教師たちから『できる日本語』という
新しい教科書が生まれました。その壮大な作業の過程で
教師が学んだこと、考えたことを、皆さんと
共有していきたいと思います。

第10回

学習者の 自律的な学びを考える

※「連載ラインナップ」として予定していた
テーマから、変更してお送りします。

「学習者の自律的な学び」と 教師の役割

「自律的な学びが大切だ」とよくいわ
れます。一方で現場教師からこんな疑問
を投げ掛けられることもあります。

- 自律学習って本当に必要なんですか。
大学受験にはもっと効率が……。
- 自律学習が大切なのはわかってるけど、
どう進めていかわからなくて……。
- 努力してるんですが、どうしても時間
がかかって、非効率的で……。

実は、こうした疑問は、自律学習をよく
理解していないことから生じているの
です。教科書を考えるこの連載で、こん
な疑問を取り上げたのは、どんなに良い
教科書を手にしたとしても、教師自身の
意識が変わらなければ、教育実践のやり
方にあまり変化は現れないからです。そ
こで、「教科書を考えてみませんか」シリ
ーズの残り3回は、できるだけ皆さんが
自分自身を振り返り、学習者の視点に立
って教育実践を考え直し、新たな一步を
踏み出すために役立つものになりたいと思
います。

では、「自律的な学び」とは何でしょ
うか。『日本語教育重要用語1000』（バ
ベル・プレス）では、「自律的な学び」につ
いて、「学習者自身が自己の学習に主体的

に関わり学習を孤立化せず、教授者や教
材や教育機関などといったリソースを利用
して行う学習」と説明しています。つ
まり、学習者自身が目的を定めて、主体
的に能動的に学ぶことなのです。少し例
を挙げて説明しましょう。

現在作成中の『できる日本語 初中級』
4課の行動目標は、「日本の生活を楽しむ
ために住んでいる町の情報を教え合っ
て、その情報をもとに行動することができ
る」です。そこで、相手から情報をもら
う場面で使う文型として「～んですが」
「～たらいいですか」などを学習します。

ここで、文型を自律的に学ぶというこ
とは、どういうことでしょうか。それは、
教師が提示した文型をただ単に覚え、使
えるように練習するのではなく、「こんな
とき、何て言うんだろう？」と、まずは
考え、チャレンジしながら、自ら発見し、
気付いていくことです。夕形を導入した
から「～たらいいですか」を練習したり、
「アドバイスを求めるときには「～たら
いいですか」を使うという知識を得た上
で練習したりするものではありません。

また、課の最後には行動目標に即した
総合的な活動「できる！」がありますが、
4課はこのような内容になっています。
「できる！」

今住んでいる町や学校がある町につい

て、知っていることを教え合い、実際に行ってみましょう。

- ①お勧めの店や地域のサークル、イベントなどの情報を、紹介しましょう。
- ②聞いた情報の中で、もっと知りたいことについて、紹介してくれた人に質問しましょう。
- ③興味がある所へ行ってみましょう。

国分寺に住むチョウさんは、比較的近くに住むクラスメイトを誘って、近所の喫茶店に行きました。そこで、マスターと話をし、店の常連のこと、店をやっている思いを聞き、雰囲気にもすっかり魅せられてしまいました。そんな自分の体験・思いを、今度はポスターを使って、クラスで発表しました。まだ日本に来て3カ月余りというチョウさんたちには、十分な日本語力はありません。しかし、マスターや友達との対話を通して、日本語はどんどん広がっていきました。



最後に、学習者の自律的な学びを支える教師側が忘れてはならないことを、5つ挙げることにします。

- ①「なぜ」という問いを持ち続ける。
- ②「学習目標」を明確にし、共有する。
- ③学習者に「気付き」が起こるように仕掛けをする。
- ④学習者の持っている力を引き出す。
- ⑤「選択権は学習者にあり」ということを忘れない。

常に「自律的な学び」を大切にしたい教育実践を心掛けていきたいものです。

ベ テラン日本語教師Aさんは、6月から3カ月、歌の勉強のためにアメリカに短期留学しました。それは、海外で自ら学習者となり、留学生と同じ体験をしたいという思いからでした。帰国後Aさんは講師会で、留学生活を通して学んだことを、こう語ってくれました。

「何人かの先生に付きましたが、私の心を揺さぶったのは『あるやり方』でした。それは、あるフレーズを何回も繰り返し練習させたり、何かを教えるというのではなく、『練習の仕方を教える』というものでした。『あなたにはこんな課題、問題点があるから、そこを克服して』というアドバイスだったんです。まさに自律的な学びが実感できました」

学習者に必要なのは、ただ知識を受け取るのではなく、自分で考える力を養い、学び方を学ぶことなのだというA先生の言葉は、同僚の心に強く残りました。

魚を与えるのではなく、釣り方を教える



嶋田和子

イーストウエスト日本語学校副校長。外資系銀行勤務の後、専業主婦を経て日本語教師。現在は、日本語教育業界を牽引するベテランの一人として、学習者への日本語教育はもちろん、教師養成にも当たる。著書に『目指せ、日本語教師力アップ！—— OPIでいきいき授業』（ひつじ書房）、『キムチと味噌汁—韓日、異文化交流のススメ』（教育評論社）、『ワイワイガヤガヤ 教師の目、留学生の声——異文化交流の現場から』（教育評論社）など、多数。『できる日本語』（アルク）監修

- 連載ラインナップ
- 第1回 教科書を考えるって面白い！
 - 第2回 どんな教科書と付き合ってますか？
 - 第3回 タスク先行型授業にチャレンジ！
 - 第4回 「わかる」から「できる」へ
 - 第5回 漢字学習も「できること」重視！
 - 第6回 「プロフィジェンシー」で、教師力アップ！ 1
 - 第7回 「プロフィジェンシー」で、教師力アップ！ 2
 - 第8回 21世紀の日本語教育は“対話”重視 1
 - 第9回 21世紀の日本語教育は“対話”重視 2
 - 第11回 「学習者が話したくなる」教科書とは？
 - 第12回 対話で新たな日本語教師人生を！